

- J. and Van Gucht, D.: Genetic Algorithms for the Traveling Salesman Problem, Proc. of ICGA '85, pp.16—168 (1985).
- [2] Goldberg, D. and Lingle, R.: Alleles, loci, and the travelling salesman problem, Proc. of ICGA—85 (1985).
- [3] 山村, 小野, 小林: 形質の遺伝を重視した遺伝的アルゴリズムにもとづく巡回セールスマン問題の解法, 人工知能学会誌, Vol.7, No.6, pp.1049—1059(1992).
- [4] 太田, 山村, 小野, 小林: 遺伝的アルゴリズムを用いた Nurse Scheduling Problem の解法, 第16回知能システムシンポジウム講演資料集, pp.123—128 (1992).
- [5] 太田, 山村, 小野, 小林: 遺伝的アルゴリズムを用いた Job-Shop Scheduling Problemの解法, 第17回知能システムシンポジウム講演資料集, pp.27—32 (1993).
- [6] 山村, 小林: 遺伝的アルゴリズムによる組合せ最適化, シミュレーション, Vol.12, No.1, pp.4—10 (1993).

追悼

北川敏男先生を偲んで

東洋大学 北原 貞輔

本年3月13日、北川敏男先生には、83歳でご逝去されました。謹んで哀悼の意をささげます。

先生は、昭和9年、東京大学理学部数学科をご卒業後、大阪大学を経て九州大学理学部に助教授として着任され、昭和18年に教授に昇進、統計数学講座、計画数学講座をご担当になられました。この間、推測統計学を開拓、さらに推測過程論や管理過程論を展開され、多くの研究成果を挙げられましたことは、特に記すまでもないことと思います。

昭和25年から6期18年間にわたって、先生は、日本学術会議会員として日本の科学研究の発展に指導的立場で貢献されました。昭和28年には、品質管理に関してデミング賞を受賞され、31年には、国際統計協会正会員に推挙されました。その間、インドの経済開発計画に参画、32年に、歴史学のトインビー博士や物理学のオープンハイマー博士とともにカルカッタ大学の名誉博士号を受けておられます。また、日本OR学会フェロー、米国数理統計学会フェロー、情報処理学会会長などを勤められ、科学の発展に多方面から貢献してこられました。

九州大学では、評議員や図書館長、理学部長、基礎情報学研究施設長などを歴任され、昭和48年に停年退

官、同時に富士通㈱国際情報社会科学研究所長に就任され、それを国際的評価の高い研究所に育成されました。

北川先生の卓越した先駆的な識見は、他の追従を許さないものがあったように思われます。昭和20年代中葉に、早くもウィーナーのサイバネティクスを日本に紹介され、現代科学者たちのかなり多くが、なお構造的立場に立っているのに対し、すでに20年代から過程論思想を展開されていたことは特質すべきことではないでしょうか。その延長線上で、初めて情報学という用語を使用され、制御・営存・創造の3座標軸を提起されたことは、あまりにも画期的なものでした。そこには死んだ世界の科学から生きた世界の科学への思想転換の要が示唆されているからです。

現在の自然環境破壊にも、先生は、いたく心配しておられ、昨年10月にお会いした折にも、多くの有用なご意見をいただき、地球の未来に対する高邁なご識見に驚くと同時に、生きた世界観をお持ちであったことを痛感させられました。人類存続の危機に直面している今日、偉大な指導者を失くしたことは痛恨のきわみであります。心からご冥福をお祈り申し上げます。